

理系脳を育てる5つの姿勢

②論理く筋道を立てるく

日常会話で鍛える

一般に論理力は、10く15歳にかけて伸びると言われています。中学生の幾何で証明を学ぶのは、この成長過程をふまえて論理力を鍛えているというわけです。

この時期に論理力をぐんぐん伸ばしていくためには、小学生のうちには、小学生のうちに一定の論理力を身につけておかなければなりません。

小学生に論理?!

一体どうやって? と不安に思われる方もいるでしょう。決して難しいことをする必要はありません。日常会話を大切にするだけです。

とはいえ、どのように大切にしたらよいのでしょうか。

「聞かせる」と「答えさせる」

一つめは、親が論理的に話を展開していくのを聞かせることです。

そもそも論理的展開とは、始まりの一文から結論に向かって話を進めることです。幾何の証明がまさにそうですね。最後、ゆえに何々である、と結論に至って、その問題の解答が完成したのを覚えておられると思います。が、この展開だと子どもは先が見えないので途中で嫌になってしまいます。

そこで子どもに話すときは、まず結論から話し、なぜかというところこうで、で、それはまたなぜかというところ……、というように「戻していく論理展開」をしてあげてください。いつもそうする必要はありませんが、たまにはそういう話し方を聞かせてあげてください。

二つめは、子ども自身に今述べた逆の論理展開で話をさせることです。子どもに答えさせるスタイルです。

学校から帰ってきた子どもが、

「今日、揚げパンを二つ食べたんだよ」